

日本の航空旅客マーケット ミニ概観

2015年8月31日

日本の航空旅客市場について、2013～2014年度の当局資料や各社の資料をもとに、若干の推定を加えて、概観してみた。

1. 国内旅客市場

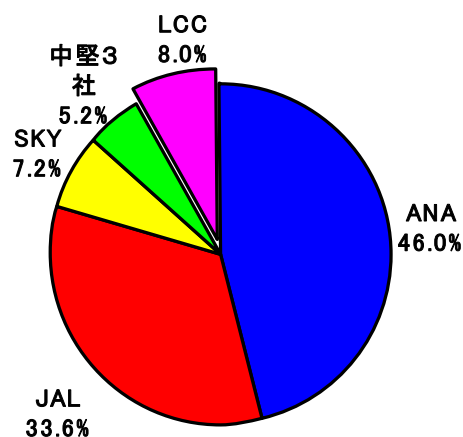
2014年度の旅客数は約9,400万人、うちANAがその46%の4,300万人※。

LCCはその8%の760万人で、スカイマークや中堅3社（Air Do、ソラシド、スターフライヤー）を上回る。但し今夏繁忙期のLCC4社のシェアは10%を超えた。

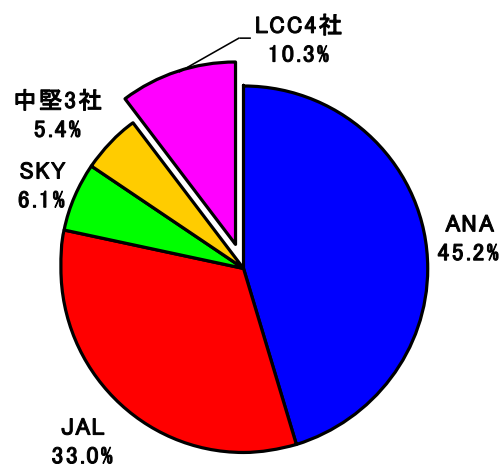
（※）ANAは中堅3社やリージョナル会社とのコードシェアを活用しているが、その旅客数は約4%にあたる350万人強と推算される。

《図表1》2014年度国内線旅客数とシェア

2014年度		
国内線旅客数		
	万人	万人
ANA	4,330	
JAL	3,165	
SKY	675	
ADO	192	中堅3社 494
SNA	161	
SFJ	142	
Peach	251	LCC 757
J/S-J	419	
Vanilla	65	
Spring	23	
total	9,422	



《図表 2》2015 年夏季繁忙期の国内線旅客シェア

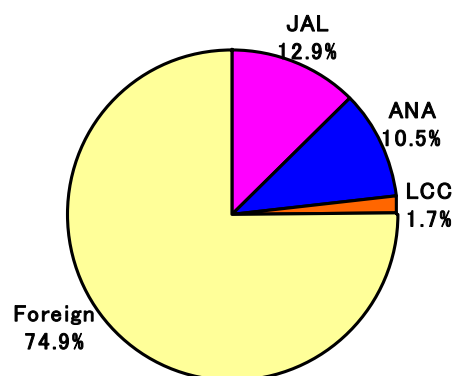


2. 国際旅客市場

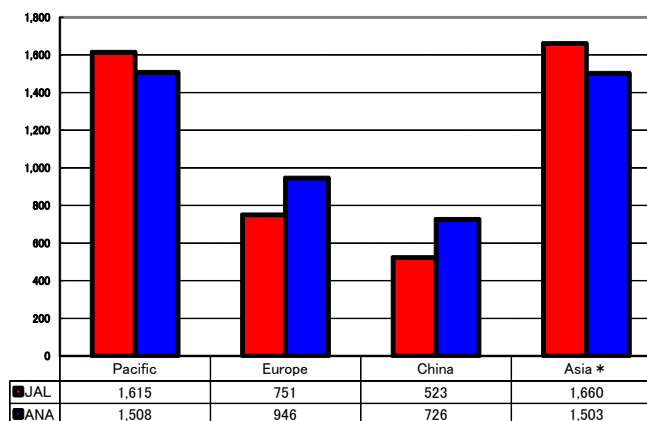
- ① 2013 年度の旅客数は約 6,000 万人、うち日本の航空会社はその 25%の 1,500 万人。2014 年度の日本の航空会社の旅客数は 140 万人増えて約 1640 万人となった。また ANA と JAL の旅客数はほぼ同じ規模となった。
- ② 2014 年度の収入をもとにして JAL と ANA を路線別に比較すると、ANA は欧州線と中国線で JAL を上回り、JAL は大平洋線とアジア&オセアニア線で上回っている。

《図表 3》2013～2014 年度国際線旅客数とシェア

2013年度		2014年度	
国際線旅客数			
	万人		万人
JAL	772	779	
ANA	634	721	
その他	103	145	
国内社計	1,509	1,645	
外国社	4,502	?	
total	6,010	?	



《図表 4》2014 年度国際旅客収入の路線別 JAL/ANA 比較（単位；億円）



③ 2015年8月最終週の日本発着便数をみると、

1日の便数（往復ベース）は639便で、うち日本の航空会社はその28.5%の182便。中国・韓国・台湾の航空会社は合計246便（38.4%）で、日本の航空会社を大きく上回り、外国社の過半を占める。

（日本の航空会社の内訳）

JALの10.9%（系列LCCのJetstar-Jを合わせて11.1%）に対し、

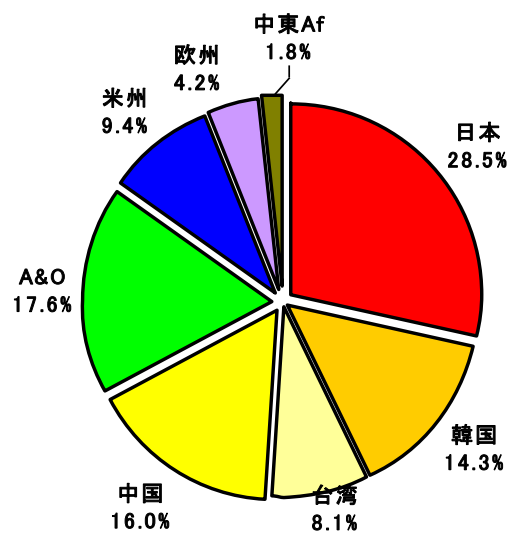
ANAが13.4%、系列LCCのPeachとVanillaを合わせると16.3%となる。

貨物専用会社のNCA（1.1%）を除いてみれば、ANA系で日本側の約6割を占めるに至っている。

日本の航空会社の便数シェアが低いのは、地方空港発着便が殆ど無いことも影響している。（諸外国では、その国の航空会社の便数シェアが半数近くを占めているのが一般的である。）

《図表 5》日本発着便数（往復/日）とシェア（CAPA 資料による）

日本発着便数 (2015.8.へース)	
(国籍)	往復/日
日本	182
韓国	91
台湾	52
中国	103
A&O	112
米州	60
欧州	27
中東Af	11
(計)	639



(Y.T) 以上